

第IV部 調査テーマへの自由意見

調査テーマへの自由意見

質問の最後に、調査テーマに対しての意見、提案などを自由に記述してもらったところ、回答者1,250人のうち、13.9%に相当する174人から多岐にわたる意見が寄せられた。

(1) 食・食育

- 今は子どもたちへの食育について話題になることが多いですが、成人にも食育は必要だと思います。テレビや書籍での健康情報が多い分、偏った考えをする大人も増えているかと思います。(相模原・女性・40歳代)
- 食・食育のテーマで、ぜひ中学校も給食にしてほしいと思います。(横浜・女性・60歳代)

(2) 東京2020大会の機運醸成に向けた取組

- ラグビーの横浜大会や東京2020大会のセーリング競技について、どちらも世界レベルの大会が神奈川で開催されるので期待しています。(横浜・女性・60歳代)
- 2020年にオリンピックをする費用が3兆円と言われている。まだ原発被害者が苦しんでいるのに、どうしてオリンピックを開催するのかが分からない。(湘南・男性・40歳代)
- オリンピックをもてはやし、そこへの予算の注ぎ込みをみると、とてもむなしくなります。(横浜・女性・60歳代)
- 東京2020大会は貴重な税金を大量に投入するが、国民にどのようなメリットがありますか？一部の政治家やマスコミ、アスリート関係者だけが大騒ぎしているような気がします。(相模原・男性・60歳代)

(3) とともに生きる社会かながわ

- 神奈川県に住み続けて20年以上がたちますが、ともに生きる社会かながわ憲章は知らなかった。(横浜・男性・50歳代)

(4) 子ども・子育て支援

- 認可保育園を増やしてほしい。(相模原・男性・30歳代)
- 神奈川県で行っている子育て支援は、どのようなことを行っているか知りたいです。子育てをしている中で、子育てのしにくさ、不公平感があります。(県央・女性・40歳代)
- 現在母子家庭であり、手当保障は18歳までと心強いですが、それ以降、進学したい場合、支度もできない家庭が多いのではないのでしょうか。何らかの保障制度が欲しいです。(横須賀三浦・女性・50歳代)
- 安心して子どもを預け、働ける環境を。(川崎・男性・40歳代)
- 子育て支援に関して、リタイアした健康で元気な人の活用を考えた方が、人生の経験も豊富で、親に対してのアドバイスもできると思う。(湘南・女性・60歳代)
- 子ども・子育て支援について、ひとり親で日々の食事や生活面等、何か困った時にそのお子さんの手助けをしたいと常に思っているが、その手立てがわからず悩んでおります。(川崎・女性・60歳代)

- 子育ての助成に親の収入制限はおかしいと思う。平等に支援すべき。
(相模原・女性・40歳代)
- 子育てにやさしい環境、公園などが充実していない。少子化であれば子育てできる環境、経済的な援助を考えるべき。(県西・女性・40歳代)

(5) 教育

- すべての児童に同じことを教える画一的な授業ではなく、もっと選択性、自由度の高いカリキュラムを組むべきだと思う。(川崎・男性・30歳代)
- 学校でのいじめ対策は、もっと真剣にしていきたいです。県立高校の特色をなくするような学力偏重をやめていただきたい。(横須賀三浦・女性・50歳代)
- 2人の娘とも近い将来東京都の私学に進学する可能性も高いです。いち早く都が実現している高等教育の私学も含めた無償化に早く着手してください。(相模原・男性・50歳代)
- 神奈川県の中でも、横浜市だけ中学校の給食がない。早く給食設備を整えてほしい。
(横浜・女性・30歳代)
- 生涯教育に関する政策を強化してほしいと思います。高齢者向けだけでなく、若年層の学びの機会、例えば資格取得や就職後の大学等への入学支援など。(横浜・女性・20歳代)
- 学校の部活は興味を持たせ、楽しさを教えることが大事。上を目指していくような子には専門の指導者へ誘導することが望ましいと思います。(横浜・女性・50歳代)

(6) 「未病改善」の取組

- 埼玉県深谷市のアクアパラダイスパティオのようなごみ焼却施設の余熱を利用した屋内プール・温泉施設を県営か市営で作っていただけたら、未病につながり、再生可能エネルギーの使用で環境に配慮した地域にもやさしい開発になるのではないのでしょうか。
(湘南・女性・30歳代)

(7) ヘルスケアICTの取組

- ヘルスケアICTは高齢社会にとっては必要であり、充実化を期待しています。
(横浜・女性・60歳代)

(8) 神奈川県の農林水産業

- 地産地消を推進するためにも、子どもたちに農林水産業について知る機会を提供していただきたい。(川崎・女性・40歳代)

(9) 環境に配慮した生活

- 税金の無駄遣いをやめて、もっと未来の子どもたちのためになる施策を提案してほしい。原発ゼロ！(湘南・男性・40歳代)

(10) 住宅の省エネルギー化

- 住宅の省エネルギー化の調査がありました。今は電気、ガス、個人で選べる時代になり、いくつも会社があるので、料金の比較、今後の参考に分かりやすくしてもらえるとありがたい。
(相模原・女性・40歳代)

(11) 将来の住まい

- 空家、土地の活用（老後、低コストで生活できるような活用）。耕作放棄地の利活用（農地法に対する特区など）。
(横浜・男性・50歳代)

(12) 人権問題

- 社会人になった時に、職場の研修で初めて同和・部落ということを知りました。どういう差別があったかを知らないでいいとは思いますが、差別自体は残念ながらなくなるので、差別の内容（種類）によらず、差別教育が必要だろうと思います。
(湘南・女性・40歳代)
- 同和問題のことを時々目にします。が、そのことを取り上げること自体、差別につながっているように感じます。
(県央・女性・60歳代)
- 身近に同和問題など一切見聞きしないし、感じたことはない。同和、同和としつこく問題にすることが悪い。
(横浜・男性・40歳代)

(13) 自転車損害賠償保険への加入

- 近年、自転車の事故が多いので、自転車損害賠償保険への加入は有意義だと思います。
(湘南・男性・50歳代)

(14) 地震対策の取組

- 津波の時もすぐにメール、電話がつながらなくなりました。インターネットもその場にいたり、スマホを持っていないと情報がない人は情報が遅れてしまいます。
(横須賀三浦・女性・70～74歳)
- 境川の近くに住んでいるので、防災にはとても関心があります。犬を連れて避難所に行けるのかとか、不安です。
(横浜・女性・50歳代)

(15) 治安対策

- 治安対策について、神奈川県単独で改善・充実させるには限界もあると思いますが、今一度、交番・駐在所における警察官の常駐とパトロールを実施していただきたい。
(横浜・男性・60歳代)
- 近所に交番はあるが、警察官はいない時間が長い。
(県西・女性・40歳代)
- 犯罪を防止するには環境（草木の茂みを減らす、ゴミの少ない街、自転車と歩行者の分離など）の整備により犯罪を起しにくいまちづくりが大切。
(川崎・女性・40歳代)
- 防災等のイベント（訓練告知）はもっと大々的に行ってほしい。
(相模原・男性・40歳代)
- 街で見かける警察官の数が少ない。もっと頻繁に見かけるようにしてほしい。
(県央・男性・50歳代)

(16) 県政一般

- 県の取組というより、普段は市内の広報誌や市の教育状況がどうなのかを気にしております。県が変われば市も変わっていくと思うので、個人の幸せを願い取り組んで行ってほしいと思います。(県央・女性・40歳代)
- 子どもの医療費減額はよいが、無料にすると無駄が増える。1割以下でもよいので負担があるべき。(横浜・男性・50歳代)
- 将来不安ばかりなので、安心して暮らせる福祉、年金体制の整備を考えてほしい。(横浜・女性・40歳代)
- 県内に住んで15年余り、県に接触したこともなく、県の広報関係も全く知らない。(相模原・男性・75歳以上)
- 県政や治安に対する情報収集は行っていない。それは無関心でいる一方、現状に不満や不安を抱いていないからなのかもしれない。(県央・男性・50歳代)

(17) その他

- 改めて、県の情報を全く知らないと感じました。(相模原・女性・20歳代)
- 今の神奈川県を取組を知るいいきっかけになった。(横浜・女性・20歳代)
- 1回のアンケートに対して、質問が多すぎる。(県西・男性・60歳代ほか類似意見16件)
- インターネットで回答したところ、最後まで行ったのに「時間切れとなりました。もう一度やり直してください」となり、二度手間になりましたので、改善を希望します。(横浜・女性・30歳代ほか類似意見10件)
- 調査結果から導き出された今後の県の施策を公開してほしい。(横須賀三浦・女性・40歳代ほか類似意見6件)
- このアンケートが県政に対してどのように活かされるか、何のためのアンケートか、疑問を感じながら記載をさせていただきました。(横須賀三浦・男性・75歳以上)
- 今回のアンケート項目がどのような背景、経緯で選択されているのかが分からなかった。全体像の説明がほしい内容だった。(横浜・男性・40歳代)
- 今回の質問は、実際に行政に反映できるのでしょうか。(湘南・男性・70～74歳)
- 今まで考えたことのないこと、知らなかったことがたくさんあり、もっといろいろなことに興味を持ち、積極的に情報を入手するように心がけたいと思いました。(湘南・女性・40歳代)
- 県から発信されていることがこんなにあるのかと、改めて知りました。「県のたより」「かなちゃんTV」など、もっとよくチェックしていきたいと思いました。(湘南・女性・50歳代)
- 県内の情報をTVでほとんど確認するが、あまり情報がない。市内の放送はほとんど何を伝えているか聞き取れないことが多々ある。(湘南・女性・60歳代)
- 時間に余裕がなく、TVを見ることや新聞も現在はおっていないため、情報と知識の少ない中で生活しているのだと実感しました。もう少し情報をキャッチできる生活環境を作っていくことが必要だと思っています。(相模原・女性・50歳代)
- 自分がまだ知らない言葉がたくさんあって、勉強不足と感じた。現在主婦のため、外の社会の現状がよく分からないので、もっと知る必要があると感じた。(湘南・女性・20歳代)

- 単身世帯で子どもがいなければ近所付き合いが全くないことが現状です。このような調査があつて改めて考えさせられたこと、関心を持つべきことに気づきました。ありがとうございました。(川崎・女性・50歳代)
- 都内への通勤・通学者が多く住んでいると感じる。県の情報があまり身近に入っていないので、電車内の広告や都心でのPR活動があるとよいと思う。(川崎・女性・30歳代)

